様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２２ 日現在

機関番号：２４６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１０５８０

研究課題名（和文）認知症予防における発展的介入：居宅や施設を訪問して介入する人材の養成と効果の検証

研究課題名（英文）Development of a method for preventing dementia: Training of therapists visiting homes and facilities, verification of their effectiveness.

研究代表者
澤見　一枝（Sawami, Kazue）

奈良県立医科大学・医学部・教授

研究者番号：６０６１０９９６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：【目的】前期高齢者が後期高齢者をサポートするシステムを創生し発展させることを目的に、前期高齢者を対象とした認知症予防サポーター研修を開催し、計12回の研修修了者は、独居高齢者および外出困難な高齢者の居宅を訪問して認知症予防活動を実践し、その効果を検証した。
【実績】奈良医大、和歌山医大、姫路大学、修文大学の共同で、4地域でサポーターを養成し、高齢者への訪問活動を行った。この結果、対象者の認知得点・心理尺度に有意な向上が得られた。また、定期的に地域住民への報告会を開催し、地域活動の定着を促進する効果があった。2020年以降コロナ禍で、訪問を遠隔コミュニケーションとしたが、2022年から再開できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
外出が困難な高齢者は、地域のプログラムやサービスへの参加が難しく、運動不足や筋力低下、認知の低下などの健康問題が生じやすく、定期的な医療やリハビリテーションへのアクセスも制限される。必然的に自宅に閉じこもりがちであり、心理的なストレスやうつ病のリスクが高まる。これに対する訪問活動は、社会的孤立を防止し、健康状態のモニタリングができ、生活状況や抱えている困難などを把握して心理的な支援ができる。前期高齢者は対象の後期高齢者との世代の近さから、共有できる貴重な経験を持っており、サポーターとして高い共感力を発揮できる。これによって対象者が人生の価値を確認でき、孤立感を減らし、つながりを実感できる。

研究成果の概要（英文）：[Purpose] The training was held for elderly people in the younger elderly, with the aim of creating and developing a system in which the younger elderly can support the latter-stage elderly, dementia prevention supporter training was held for the younger elderly.
[Achievements] Nara Medical University, Wakayama Medical University, Himeji University, and Shubun University jointly trained supporters in four regions and conducted visiting activities for the elderly. As a result, a significant improvement was obtained in the subject's cognitive score and psychological scale. In addition, regular debriefing sessions were held for local residents, which had the effect of promoting the establishment of local activities. Since 2020, due to the corona disaster, remote communication was used for visits, but it was possible to resume from 2022.

研究分野：高齢者看護学

キーワード：認知症予防　居宅訪問　独居高齢者　外出困難　大学連携　地域システム

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

高齢化が進行し、要介護高齢者や認知症高齢者が増加した中、生活動作能力の低下や慢性疾患によって外出が困難になると、さらに生活機能の低下が加速するという悪循環に陥る。これらの要因は老化そのものであるが、前期高齢者は加齢の影響が少なく、健康維持への関心が高く、社会活動への参加率が最も高く、新しい学びやチャレンジへの積極性が高い。

そこで、前期高齢者が後期高齢者をサポートするシステムを地域で発展させれば、前期高齢者は世代の近さから共感力が高く、身近な存在として活躍することが期待でき、この相互支援は、地域コミュニティの結びつきを強化することにも繋がる。また、前期高齢者自身の存在意義や自己肯定感を高めることができる。

これを地域システムとして定着させるためには、自治体が地域の実情や課題に詳しいため、協働により、大学の専門知識や自治体の経験知を結集し、より包括的かつ効果的な地域システムを創造することができる。また、大学は研究機関としての役割を果たしており、自治体の問題解決や地域の課題に関する研究・開発を支援することができる。大学と自治体が共同で、前期高齢者をサポーターとするプロジェクトを立ち上げ、双方の役割を明確化して取り組むことで、より地域特性に適応したシステムとすることができる。

また、大学連携によって異なる大学の専門家が集まり、知識と情報と資源を共有することで、研究に必要なリソースを効率的に活用でき、研究の幅が広がり、より多角的な視点から課題を分析し、新たなアプローチや療法の展開につなげることができる。

２．研究の目的

外出困難者は、社会的な刺激や活動の欠如によって認知症のリスクが高まることが指摘されている。交流や対話が極めて減少した状況であるために、情報処理能力が低下する。対話は情報のやり取りや共有の手段であり、その過程で認知機能が使用される。会話を通じて、言葉の理解や表現、記憶、注意力、思考などの認知プロセスが働き、認知機能に影響している。

本研究は、このような外出困難な高齢者に対し、居宅を訪問して認知症予防活動を行うことによって対話量を増やし、サポーターとの親密な関係性を築き、認知トレーニングによって認知機能を向上し、交流やコミュニケーションを通じて情緒的な安定や満足感を得て、社会的な意義のあるつながりを培うことに焦点をあてた。前期高齢者は、退職後の自由な時間が確保され、運動機能が維持されている [1] ことから、社会活動への参加率が高いため、前期高齢者を対象とした認知症予防サポーター研修を開催した。

計 12 回の研修修了者は、独居高齢者および外出困難な高齢者の居宅を訪問して認知症予防活動を実践し、その効果を検証することが研究目的である。

３．研究の方法

(1) 大学・自治体連携

この研究は、奈良県立医科大学、和歌山県立医科大学、姫路大学、修文大学の共同研究である。各大学が所属する自治会との連携で、サポーターとなる前期高齢者および対象である外出困難な高齢者を募集した。募集には対象の漏れがないよう、パンフレットを全戸配布した。

(2) 認知症予防サポーターの養成と実践

前期高齢者を対象とし、各大学で 50 名の研修受講者を募集し、月 1 回 90 分の研修に 1 年間 12 回の参加で修了証を発行した。修了者は研究者と共に独居および外出困難な高齢者の居宅を訪問して認知症予防活動を実践し、認知テストや心理尺度、インタビュー調査を行った。

(3) 対象者への介入内容

介入内容は、音楽にのせた簡単な Dual Task（同時に 2 つの異なる運動的なタスクを行う）、N-Back Task（一連の単語や数字を記憶し、N 回前のものを回答する。１つ前（１バック課題）または２つ前（２バック課題）の単語や数字を答える）、回想法を組み合わせたプログラムを実践する。音楽療法や回想法は、音楽療法士や心療回想士による研修を終えている。

(4) 評価尺度

① **認知テスト：・集団式松井 10 単語記憶テスト＜即時再生＞**；10 単語を読み上げた後に、覚えた単語を１分間で書く作業を 4 回繰り返す。40 点満点で評価。

・山口漢字符号変換テスト；主に前頭葉機能（実行機能や注意）を評価する。色を表す漢字を、対応する記号に変換する。２分間で記載し、正解の記号数を得点とする。

・語想起テスト；単語を連想して思い出す作業能力の評価。「動物名」を、1 分間でできるだけ多く書く作業を行う。

・集団式松井 10 単語記憶テスト＜遅延再生＞；即時再生で記憶した 10 単語を思い出して、1 分間で記載する。10 点満点で評価。

上記 4 項目をセットとして実施する。これらの評価用紙と評価実施マニュアルは以下参照
https://www.mhlw.go.jp/topics/2009/05/dl/tp0501-sankou7-3.pdf

② **心理尺度：・POMS™ 短縮版**；Profile of mood states の短縮版は、30 問の質問で、以下

の下位尺度を評価する。
「Tension-Anxiety（緊張‐不安）」
「Depression-Dejection（抑うつ‐落込み）」
「Anger-Hostility（怒り‐敵意）」
「Vigor（活気）」
「Fatigue（疲労）」
「Confusion（混乱）」
被検者は、提示された項目ごとに、その項目の気分になることが過去１週間で「まったくなかった」（０点）から「非常に多くあった」（４点）までの５段階（０点～４点）のいずれかひとつを選択する。個人の心理的な状態を総合的に評価するために使用される。

・5 段階の Likert scale；以下の心理状態について、1~5 の段階からひとつを選択する。
[満足感][自信][孤独感][信頼感][不快感]
1.全くそう思わない（Strongly Disagree）
2.そう思わない（Disagree）
3.どちらとも言えない（Neutral）
4.そう思う（Agree）
5.完全にそう思う（Strongly Agree）

③ インタビュー調査；介入中の気持ちや介入が始まってからの気持ちの変化について、自由な語りを記録する。

(5) 分析方法

得点など比率尺度の前後比較は対応のあるｔ検定、リッカートスケールなど順序尺度は Wilcoxon の順位和検定、群間比較は共分散分析を用いた。インタビューの内容は定性的に分析: トランスクリプトから個人の経験や意味づけに焦点を当て、共通のテーマや意味を抽出した。

(6) 臨床試験登録

この研究は UMIN 臨床試験レジストリ(ID:UMIN000037544)に登録している。

(7) 倫理的配慮

奈良県立医科大学 医の倫理審査委員会の承認を得て実施している。対象者には、活動内容、比較試験、結果の開示について書面および口頭で説明し、同意書の提出により研究登録を行った。

４．研究成果

(1) 認知症予防サポーターの養成と実践

前期高齢者を対象に認知症予防サポーター研修を実施し、修了者は訪問活動を開始した。4 大学で登録したサポーターは 201 名である。登録者のうち、153 名が研修前後のスキルの比較を実施できた。奈良医大は 82 人で男性 11 人、女性 71 人であり、和歌山医大は 28 人で男性 5 人、女性 23 人、修文大学は 29 人で男性 5 人、女性 24 人、姫路大学は男性 2 人、女性 12 人で、平均年齢は 70.5±5.6 歳であった。

認知症予防の知識については、リッカートスケールの 5 段階評価はいずれも有意な改善を示し（$p<0.01$、図 1)、奈良では平均 2.6 から 4.1 点、和歌山は 2.9 から 3.9 点、修文大学は 2.8 から 4.3 点、姫路大学は 3.2 から 4.1 点となっている。

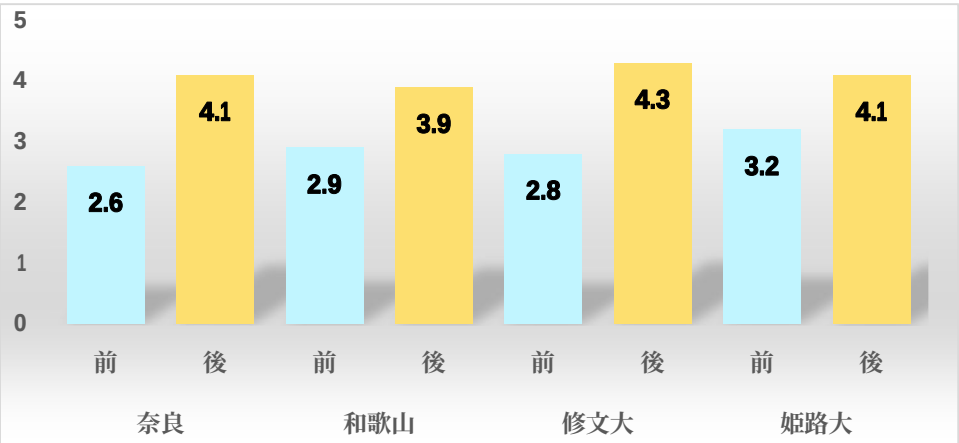

図 1．サポーターの認知症予防における知識の前後比較

認知症予防活動の技術については、奈良は平均 2.6 から 3.6 点（$p<0.01$)、和歌山は平均 2.9～3.5 点（n.s.)、修文大学は 3.2 から 4.0 点（n.s.)、姫路大学は 3.0 から 3.8 点（$p<0.05$）であり、有意な向上があったものは半数に留まった（図 2)。この結果については、知識はついたと実感できるが、実際の活動になると自信を持って実践することが難しいという感想が多く聞かれた。

しかし、サポーターの活動成果においては、認知症の症状や進行についての理解を深め、認知症や予防に関する正確な情報を提供することができ、その活動によって対象者の認知・心理尺度

の向上を確認できた。特に、対象者との心理的な関係性において、対象の語りの分析から「情緒的な共感」、「信頼」、「安心感」、「親近感」にカテゴリー化され、対象者がサポーターに信頼や安心感を抱いていたことが示された。

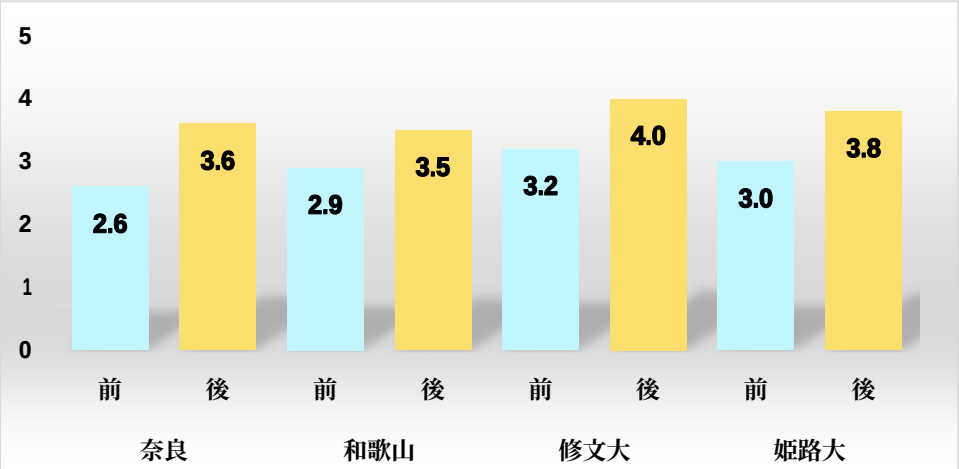

図 2．サポーターの認知症予防活動における技術の前後比較

(2) 対象者への介入

独居高齢者・外出困難な高齢者の登録数は、4 大学の合計で 108 名であり、研修を終えたサポーターによる月 1 回の訪問活動を順次開始した。

外出困難な高齢者たちへのインタビューでは、一旦外出しなくなると、身だしなみを整えて外に出ることが面倒になる、歩行の困難で買い物も自分ではできない、一日中何も話さない日がある、誰かが来たり電話をかけたりしなければ会話の機会がない、といった内容が大半であった。これに対し、居宅に人を招くことによって、家を片づけたり着替えたりといったことが必要になるが、面倒な気分よりも期待感や楽しみな気分が大きく上回っていた。

サポーターの実践する認知症予防プログラムは、研究者と共に対象の状態を評価して、個々の状態に合わせて実践した。3 回の訪問活動を終えた対象者に対し中間評価を行っていたが、活動中にコロナ禍となり、蔓延防止措置のために訪問休止が余儀なく、コロナ禍の前に中間評価を行えた人数は 37 人であった。男性 8 名、女性 29 名、平均年齢 80.5±4.68 歳で、認知得点と心理尺度に有意な改善があった。認知テストは、即時再生が 18.0 から 28.4 点（$p<0.01$, 図 3)、遅延再生が 3.9 から 6.6 点に有意な向上があった（$p<0.01$, 図 4)。

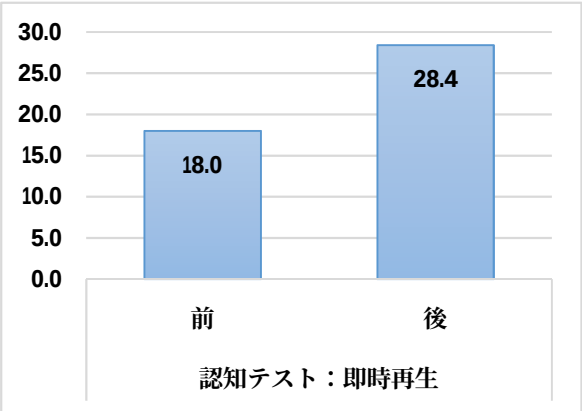

図 3. 認知テスト: 即時再生得点の前後比較

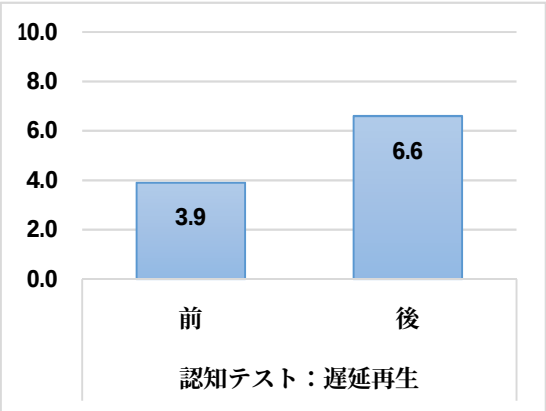

図４. 認知テスト: 遅延再生得点の前後比較

心理尺度では、POMS の気分得点（T 得点）がすべて有意に改善していた（$p<0.01$, 図 5)。

Likert scale の平均値では、[満足感]が 3.2 から 4.7、[信頼感]が 3.3 から 4.8 に有意な向上があり（$p<0.01$)、[孤独感]が 4.2 から 3.2 に有意な低下があった（$p<0.01$)。[自信]は 2.5 から 2.8、[不快感]も 1.8 から 1.2 と変化がなかった。

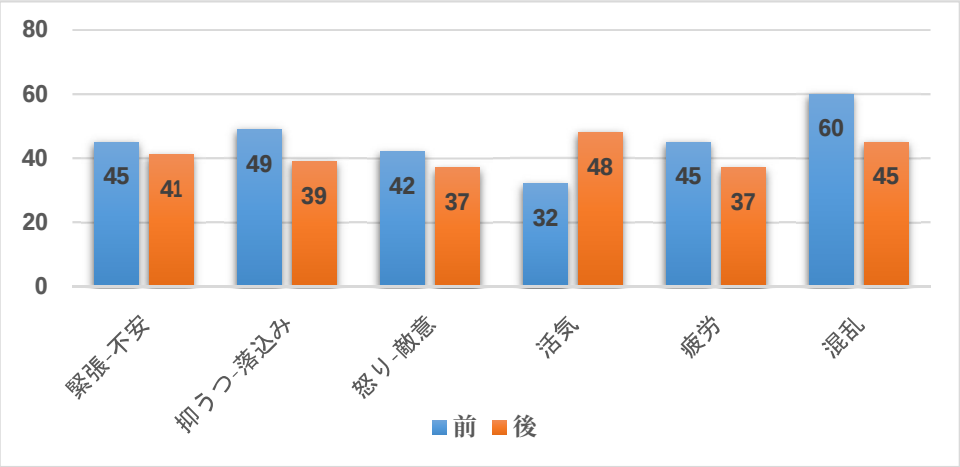

図 5. POMS の T 得点の前後比較

インタビューの分析では、認知得点の向上に対する[期待]や[安堵感]、回想法に対する[懐かしい記憶]、[家族の思い出]、[今はない風景]、[戦時の体験]、[頑張った生活体験]、[自分のストーリー]、サポーターとの[信頼]、[安心感]、[親近感]にカテゴリー化された。

(3) コロナ禍の活動

高齢者への居宅訪問活動は、感染予防の観点から実施せず、かわりにロボットを高齢者の居宅に設置して、遠隔コミュニケーションによって認知症予防活動を実施した。ロボットのカメラを通した画面によって、高齢者の表情や様子がわかるため、特に支障なく認知チェックもインタビューも実施でき、有意な心理・認知得点の向上が得られた。また、電話での補足を実施した。

【本研究における遠隔コミュニケーションの課題】

特に認知機能障害が進行した高齢者への介入では、その時々によって反応がまちまちであるが、安らげる場の設定と対象が安心して会話を継続するための傾聴技術が求められる。しかし、遠隔コミュニケーションでは、対面で対象の反応に呼応して対話を進めていた方法と違い、「遠隔」であることが円滑なコミュニケーションの障壁となっている。

遠隔コミュニケーションでは、表情や動作などの非言語的に理解できることが制限されるため、相手の意図や感情を理解することが難しく、コミュニケーションの文脈やニュアンスが失われることで、意図が伝わりにくい。この半面、遠隔では「訪問するための往復時間」が短縮されるため、連絡を密に取れることがメリットである。

2022 年からは、サポーターの集会や対象への訪問活動を再開しているが、遠隔コミュニケーションを適宜活用することで、介入頻度を増やすことができる。遠隔のメリット・デメリットを分かった上で、上手く活用することで、効果的な介入にできると考える。

(4) 考察

人の寿命は劇的に延び、高齢者が第二の人生を計画することは重要な人生のステップである。しかし、歩行の困難などで外出困難な場合、多くのことができなくなり、他者のサポートが必要となる。サポーターの支援や技術は、対象の生活に大きな影響を与え、高齢者にとって懐かしさを共有できると、仲間意識が芽生えやすくなる。前期高齢者は近い時代を生きて共有できる体験が多いため、サポーターも対象者も回想効果を通じて精神的な癒しを感じることができる。

このようなメンバー間のつながりの確立は、サポーターにとって自分の貢献がプラスの影響を与えると感じられ、好循環が生まれる[2,3]。 また、人手不足の解消にもつながる。サポーターの実践により、認知能力の有意な改善が得られたが、理論的には、次の相乗効果によるものである。Dual Task による前頭葉機能の改善[4]、N-Back Task による記憶力の改善[5]、脳神経に対する音楽療法の効果。これらによって、今後の介入においての有力な示唆が得られた。

文献

1. 齋藤由香里、他．前期および後期高齢者の運動機能について．理学療法科学．31:2016;57–60.
2. Blieszner R., et al. “Friendship in Later Life: A Research Agenda”. Innovation in Aging 3 (2019): 1-18.
3. Bahramnezhad F., et al. “The social network among the elderly and its relationship with quality of life”. Electronic Physician 9 (2017): 4306-4311
4. De Andrade LP., et al. “Benefits of multimodal exercise intervention for postural control and frontal cognitive functions in individuals with Alzheimer’s disease: a controlled trial”. Journal of the American Geriatrics Society 61 (2013): 1919-1926.
5. Von Bastian CC., et al. “Effects of working memory training in young and old adults”. Memory and Cognition 41 (2013): 611-624.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計13件（うち査読付論文　13件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　13件）

１．著者名 Mitsuo Kimura, Kazue Sawami	４．巻 73
２．論文標題 Study of Factors Promoting and Hindering Subjective Well-Being Among Institutionalized Older Adults in Japan	５．発行年 2022年
３．雑誌名 The Journal of Nara Medical Association	６．最初と最後の頁 29-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Kazue Sawami; Masahiko Kawaguchi; Mitsuo Kimura; Tetsuro Kitamura; Mihoko Furumi; Naoko Morisaki; Chizuko Suishu; Sonomi Hattori	４．巻 11
２．論文標題 Training of Dementia Prevention Supporters Focusing on Early-Stage Elderly People, and Results of the Activities	５．発行年 2022年
３．雑誌名 EC Psychology and Psychiatry	６．最初と最後の頁 55-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 古角 美保子 ， 木村 満夫 ， 澤見 一枝	４．巻 17
２．論文標題 地域在住高齢者の回想法を用いた自分史作成による認知的心理的な影響	５．発行年 2021年
３．雑誌名 奈良県立医科大学看護研究ジャーナル	６．最初と最後の頁 81-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Kazue Sawami; Masahiko Kawaguchi; Mitsuo Kimura; Tetsuro Kitamura; Mihoko Furumi; Naoko Morisaki; Chizuko Suishu; Sonomi Hattori	４．巻 2
２．論文標題 Development of a Robotic Method for Preventing Dementia	５．発行年 2021年
３．雑誌名 OSP Journal of Health Care and Medicine	６．最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kazue Sawami; Masahiko Kawaguchi; Mitsuo Kimura; Tetsuro Kitamura; Mihoko Furumi; Naoko Morisaki; Chizuko Suishu; Sonomi Hattori	4．巻 2
2．論文標題 Development of a Robotic Method for Preventing Dementia	5．発行年 2021年
3．雑誌名 OSP Journal of Health Care and Medicine	6．最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kazue Sawami; Masahiko Kawaguchi; Mitsuo Kimura; Tetsuro Kitamura; Mihoko Furumi; Naoko Morisaki; Chizuko Suishu; Sonomi Hattori	4．巻 2
2．論文標題 Effectiveness of the activities of supporters trained to prevent dementia	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Iberoamerican Journal of Medicine	6．最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5281/zenodo.3700799	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sawami Kazue、Kimura Mitsuo、Kitamura Tetsuro、Kawaguchi Masahiko、Furusumi Mihoko、Suishu Chizuko、Morisaki Naoko、Hattori Sonomi	4．巻 2
2．論文標題 Robots Visit Homes For Elderly People Who Have Difficulty Going Out and Practice Brain Training	5．発行年 2020年
3．雑誌名 European Journal of Medical and Health Sciences	6．最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24018/ejmed.2020.2.1.156	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sawami Kazue、Kimura Mitsuo、Kitamura Tetsuro、Kawaguchi Masahiko、Furusumi Mihoko、Suishu Chizuko、Morisaki Naoko、Hattori Sonomi	4．巻 2
2．論文標題 Effectiveness of the activities of supporters trained to prevent dementia	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Iberoamerican Journal of Medicine	6．最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5281/zenodo.3700799	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sawami Kazue、Kimura Mitsuo、Kitamura Tetsuro、Kawaguchi Masahiko、Furusumi Mihoko、Suishu Chizuko、Morisaki Naoko、Hattori Sonomi	4．巻 2
2．論文標題 Robots Visit Homes For Elderly People Who Have Difficulty Going Out and Practice Brain Training	5．発行年 2020年
3．雑誌名 European Journal of Medical and Health Sciences	6．最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24018/ejmed.2020.2.1.156	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sawami Kazue、Kimura Mitsuo、Kitamura Tetsuro、Kawaguchi Masahiko、Furusumi Mihoko、Suishu Chizuko、Morisaki Naoko、Hattori Sonomi	4．巻 1
2．論文標題 Cognitive ability and psychological effectiveness of brain training dance robot therapy for elderly people	5．発行年 2019年
3．雑誌名 OA Journal of Neuropsychiatry	6．最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.33118/oaj.neuro.2019.01.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sawami Kazue、Kimura Mitsuo、Kitamura Tetsuro、Kawaguchi Masahiko、Furusumi Mihoko、Suishu Chizuko、Morisaki Naoko、Hattori Sonomi	4．巻 1
2．論文標題 The effect of cognitive dance therapy as dementia prevention	5．発行年 2019年
3．雑誌名 International Medicine	6．最初と最後の頁 140～146
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5455/im.302644235	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Kazue Sawami, Mitsuo Kimura, Tetsuro Kitamura	4．巻 2
2．論文標題 Verification of The Effect of Cognitive Training by Dance	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Clinical and Medical Case Reports & Studies	6．最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 Sawami Kazue、Kitamura Tetsuro、Suishu Chizuko	４．巻 2
２．論文標題 Effect of Cognitive Training by Music Therapy	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Journal of Psychiatry and Psychiatric Disorders	６．最初と最後の頁 167-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.26502/jppd.2572-519X0053	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計39件（うち招待講演　37件／うち国際学会　29件）

１．発表者名 Kazue Sawami, Mitsuo Kimura, Mihoko Furusumi, Nahoko Sato
２．発表標題 Effects of Delayed Playback Task by Dance Therapy
３．学会等名 INTERNATIONAL CONFERENCE ON NEUROSCIENCE AND PSYCHIATRY（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 澤見一枝
２．発表標題 100年時代の健康対策 ～認知症予防の実践～
３．学会等名 奈良県立医科大学・同志社女子大学 合同講演会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 澤見一枝
２．発表標題 認知症予防に効果のある介護レクリエーション
３．学会等名 認知症高齢者医療介護教育センター 専門職研修（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Kazue Sawami; Masahiko Kawaguchi; Mitsuo Kimura; Tetsuro Kitamura; Mihoko Furumi; Naoko Morisaki; Chizuko Suishu; Sonomi Hattori
２．発表標題 Psychological effects of reminiscence therapy with robots
３．学会等名 12th Annual World Congress of NeuroTalk-2021（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kazue Sawami; Masahiko Kawaguchi; Mitsuo Kimura; Tetsuro Kitamura; Mihoko Furumi; Naoko Morisaki; Chizuko Suishu; Sonomi Hattori
２．発表標題 The effects of memorization of seven different four-character idioms and dance upon cognitive function
３．学会等名 Nursing Education, Practice & Nursing Management 2021（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kazue Sawami; Masahiko Kawaguchi; Mitsuo Kimura; Tetsuro Kitamura; Mihoko Furumi; Naoko Morisaki; Chizuko Suishu; Sonomi Hattori
２．発表標題 The effects of the “reminiscence method of conversing with robots” by dementia prevention supporters
３．学会等名 10th International Conference on Central Nervous System（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 古角 美保子， 澤見 一枝
２．発表標題 地域在住高齢者の自分史作成過程における心理的変化
３．学会等名 第24回 日本精神保健・予防学会学術集会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kazue Sawami; Masahiko Kawaguchi; Mitsuo Kimura; Tetsuro Kitamura; Mihoko Furumi; Naoko Morisaki; Chizuko Suishu; Sonomi Hattori
２．発表標題 Evidence from Supporter Activities to Prevent Dementia
３．学会等名 World Congress on Primary Healthcare and Medicare Summit（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kazue Sawami; Masahiko Kawaguchi; Mitsuo Kimura; Tetsuro Kitamura; Mihoko Furumi; Naoko Morisaki; Chizuko Suishu; Sonomi Hattori
２．発表標題 Psychological effects of reminiscence therapy with robots
３．学会等名 12th Annual World Congress of NeuroTalk-2021（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kazue Sawami; Masahiko Kawaguchi; Mitsuo Kimura; Tetsuro Kitamura; Mihoko Furumi; Naoko Morisaki; Chizuko Suishu; Sonomi Hattori
２．発表標題 The effects of memorization of seven different four-character idioms and dance upon cognitive function
３．学会等名 Nursing Congress：Nursing Education, Practice & Nursing Management 2021（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Kazue Sawami; Masahiko Kawaguchi; Mitsuo Kimura; Tetsuro Kitamura; Mihoko Furumi; Naoko Morisaki; Chizuko Suishu; Sonomi Hattori
２．発表標題 The effects of the “reminiscence method of conversing with robots” by dementia prevention supporters
３．学会等名 10th International Conference on Central Nervous System（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 澤見一枝
２．発表標題 認知症予防に効果のある介護レクリエーション
３．学会等名 認知症高齢者医療介護教育センター 専門職研修（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 澤見一枝
２．発表標題 認知症と予防に必要な知識
３．学会等名 堺市健康寿命延伸産業創出講演会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Kazue Sawami; Masahiko Kawaguchi; Mitsuo Kimura; Tetsuro Kitamura; Mihoko Furumi; Naoko Morisaki; Chizuko Suishu; Sonomi Hattori
２．発表標題 Survey on Physical Exercise Persistence During Stay Home
３．学会等名 Neurological Disorder 2020（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Kazue Sawami; Masahiko Kawaguchi; Mitsuo Kimura; Tetsuro Kitamura; Mihoko Furumi; Naoko Morisaki; Chizuko Suishu; Sonomi Hattori
２．発表標題 Robots visit homes for elderly people who have difficulty going out and practice brain training
３．学会等名 International Conference on Neurology and Neuroscience（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Sawami Kazue、Kimura Mitsuo、Kitamura Tetsuro、Kawaguchi Masahiko、Furusumi Mihoko、Suishu Chizuko、Morisaki Naoko、Hattori Sonomi
２．発表標題 Survey on Physical Exercise Persistence During Stay Home
３．学会等名 Neurological Disorder 2020 webinar（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Sawami Kazue、Kimura Mitsuo、Kitamura Tetsuro、Kawaguchi Masahiko、Furusumi Mihoko、Suishu Chizuko、Morisaki Naoko、Hattori Sonomi
２．発表標題 Robots visit homes for elderly people who have difficulty going out and practice brain training
３．学会等名 International Conference on Neurology and Neuroscience（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 澤見一枝
２．発表標題 ボランティアと健康
３．学会等名 堺市中区ボランティア講座（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sawami Kazue、Kimura Mitsuo、Kitamura Tetsuro、Kawaguchi Masahiko、Furusumi Mihoko、Suishu Chizuko、Morisaki Naoko、Hattori Sonomi
２．発表標題 The Validity of Training for Dementia Prevention Supporters
３．学会等名 International Conference on Central Nervous System and Therapeutics（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sawami Kazue、Kimura Mitsuo、Kitamura Tetsuro、Kawaguchi Masahiko、Furusumi Mihoko、Suishu Chizuko、Morisaki Naoko、Hattori Sonomi
２．発表標題 Verification of skill improvement of dementia prevention supporters
３．学会等名 International Conference on Parkinson’s, Huntington’s and Movement Disorders（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sawami Kazue、Kimura Mitsuo、Kitamura Tetsuro、Kawaguchi Masahiko、Furusumi Mihoko、Suishu Chizuko、Morisaki Naoko、Hattori Sonomi
２．発表標題 Improving Positive Emotions and Promoting Exchanges through Robot Therapy
３．学会等名 11th International Association of Gerontology and Geriatrics（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 澤見一枝、木村満夫、古角美保子
２．発表標題 高齢者を対象としたバーチャル旅行体験による認知的および心理的効果
３．学会等名 第29回日本精神保健看護学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kazue Sawami, Mitsuo Kimura, Tetsuro Kitamura, Masahiko Kawaguchi, Mihoko Furusumi, Chizuko Suishu, Naoko Morisaki, Sonomi Hattori
２．発表標題 The Validity of Training for Dementia Prevention Supporters
３．学会等名 International Conference on Central Nervous System and Therapeutics（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kazue Sawami, Mitsuo Kimura, Tetsuro Kitamura, Masahiko Kawaguchi, Mihoko Furusumi, Chizuko Suishu, Naoko Morisaki, Sonomi Hattori
２．発表標題 Verification of skill improvement of dementia prevention supporters
３．学会等名 International Conference on Parkinson’s, Huntington’s and Movement Disorders（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kazue Sawami, Mitsuo Kimura, Tetsuro Kitamura, Masahiko Kawaguchi, Mihoko Furusumi, Chizuko Suishu, Naoko Morisaki, Sonomi Hattori
２．発表標題 Development of cognitive training method with music therapy
３．学会等名 World Congress on Neurology and Brain Disorders （招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kazue Sawami, Mitsuo Kimura, Tetsuro Kitamura, Masahiko Kawaguchi, Mihoko Furusumi, Chizuko Suishu, Naoko Morisaki, Sonomi Hattori
２．発表標題 A survey of expectations about using robot therapy for the elderly
３．学会等名 12th International Conference on Vascular Dementia and Dementia（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 澤見一枝
２．発表標題 認知症とその予防、産学連携による期待
３．学会等名 高石健幸リビング・ラボ - 認知症予防ワークショップ（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 澤見一枝
２．発表標題 100歳時代のハツラツライフ：認知症予防について
３．学会等名 奈良県立医科大学附属病院 臨床研究市民公開講座（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kazue Sawami, Mitsuo Kimura, Tetsuro Kitamura, Masahiko Kawaguchi, Mihoko Furusumi, Chizuko Suishu, Naoko Morisaki, Sonomi Hattori
２．発表標題 Brain Training Using a Robot and Familiar Music
３．学会等名 International Neurology Conference（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kazue Sawami, Mitsuo Kimura, Tetsuro Kitamura, Masahiko Kawaguchi, Mihoko Furusumi, Chizuko Suishu, Naoko Morisaki, Sonomi Hattori
２．発表標題 Prevention of dementia by means of robotic music therapy
３．学会等名 20th International Conference on Central Nervous System & Therapeutics （招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kazue Sawami, Mitsuo Kimura, Tetsuro Kitamura, Masahiko Kawaguchi, Mihoko Furusumi, Chizuko Suishu, Naoko Morisaki, Sonomi Hattori
２．発表標題 The relationship between cognitive ability and positive influence
３．学会等名 International Conference on Neurology and Cognitive Neuroscience（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kazue Sawami, Mitsuo Kimura, Tetsuro Kitamura, Masahiko Kawaguchi, Mihoko Furusumi, Chizuko Suishu, Naoko Morisaki, Sonomi Hattori
２．発表標題 The possibility of using intelligent robots for the prevention of dementia in the elderly
３．学会等名 27th International Conference on Neurology and Cognitive Neuroscience（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kazue Sawami, Mitsuo Kimura, Tetsuro Kitamura, Masahiko Kawaguchi, Mihoko Furusumi, Chizuko Suishu, Naoko Morisaki, Sonomi Hattori
２．発表標題 The psychological effects of robot therapy
３．学会等名 The 2018 CNS Annual Meeting（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kazue Sawami, Mitsuo Kimura, Tetsuro Kitamura, Masahiko Kawaguchi, Mihoko Furusumi, Chizuko Suishu, Naoko Morisaki, Sonomi Hattori
２．発表標題 Dance and robot therapy for cognitive ability
３．学会等名 20th International Conference on Pharmaceutical Analytical Chemistry &Technology（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kazue Sawami, Mitsuo Kimura, Tetsuro Kitamura, Masahiko Kawaguchi, Mihoko Furusumi, Chizuko Suishu, Naoko Morisaki, Sonomi Hattori
２．発表標題 Validation of methods of working-memory training
３．学会等名 4th World Congress on Parkinsons & Huntington Disease（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kazue Sawami, Mitsuo Kimura, Tetsuro Kitamura, Masahiko Kawaguchi, Mihoko Furusumi, Chizuko Suishu, Naoko Morisaki, Sonomi Hattori
２．発表標題 Advantages of robot therapy in preventing dementia
３．学会等名 World Congress on Gerontology & Palliative Care（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kazue Sawami, Mitsuo Kimura, Tetsuro Kitamura, Masahiko Kawaguchi, Mihoko Furusumi, Chizuko Suishu, Naoko Morisaki, Sonomi Hattori
２．発表標題 Relationship between cognitive ability and vascular age and stress
３．学会等名 Invitation Obesity Congress 2018（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kazue Sawami, Mitsuo Kimura, Tetsuro Kitamura, Masahiko Kawaguchi, Mihoko Furusumi, Chizuko Suishu, Naoko Morisaki, Sonomi Hattori
２．発表標題 Relationship between body composition and cognitive ability
３．学会等名 4th International Conference on Obesity and Weight Management（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 澤見一枝
２．発表標題 遅延再生課題とダンスの組み合わせによる脳トレーニング
３．学会等名 はじめての健康ダンス教室@大阪市（招待講演）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

奈良県立医科大学老年看護学　活動報告 https://www.g-nursing.com/katsudou.php 奈良県医科大学 医学部 看護学科 老年看護学 https://www.g-nursing.com/index.php

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	服部　園美 (Hattori Sonomi) (00438285)	和歌山県立医科大学・保健看護学部・教授 (24701)	
研究分担者	木村　満夫 (Kimura Mitsuo) (10816268)	奈良県立医科大学・医学部・助教 (24601)	
研究分担者	水主　千鶴子 (Suishu Chizuko) (30331804)	修文大学・看護学部・教授 (33942)	
研究分担者	森崎　直子 (Morisaki Naoko) (30438311)	姫路大学・看護学部・教授 (34534)	
研究分担者	川口　昌彦 (Kawaguchi Masahiko) (60275328)	奈良県立医科大学・医学部・教授 (24601)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関